

# 大谷學報

第六十八卷 第一号

昭和六十三年六月二十日発行

---

選択本願と三心……………神戸 和磨 (1)	
——「利他真実」について——	
宮澤賢治「どんぐりと山猫」論……………斎藤寿始子 (16)	
——童話集『注文の多い料理店』をめぐって——	
自分に見えないもの……………池上 哲司 (29)	
眞定府獲鹿縣靈巖院について……………桂華 淳祥 (40)	
——金代買額寺院の形態——	
昭和六十二年度 修士・卒業論文題目一覧…………… (54)	
昭和六十二年度 寄贈交換誌目録…………… (67)	
彙 報…………… (78)	
マンスフィールドの「幸福」について……………市橋 弘道 (1)	
——一つの視点——	

---

大 谷 大 学

大 谷 学 会

大谷学報 第六十七卷 第三号

大人の絵と子供の絵……………下村良之助

一つの授業論……………大竹 鑑  
——『介入授業の記録』をとおして——

シャーシタラクシタの

勝義としての否定論証の綱要……………片野 道雄  
——ツォンカバ造『善説心髓』試解——

「占考」をめぐる近世の問題……………木場 明志

師教聞思の徹底……………三 明 智彰

——『選択集』『二行章』から  
『教行信証』への展開についての一考察——

大谷学会 春季公開講演要旨

歴史における人間と教育……………大井 令雄

大谷学報 第六十七卷 第四号

白居易の煩惱とその詩……………平野 顕照

「豊かな社会」における女子労働……………松村 尚子

閨 秀 画 家……………岡崎 紀子

観海流の伝播に関する一考察……………中森 一郎  
——京都府下学校への伝播から——

『三彌底部論』解読研究

中有の存在に関する議論（下）……………加治 洋一

昭和六十二年 大谷学会研究発表要旨

THE  
OTANI GAKUHO  
( THE JOURNAL OF  
BUDDHIST STUDIES AND HUMANITIES )

CONTENTS

Articles :

- The Selected Original Vow and the  
Three Thoughts ..... *Kazumaro Kanbe* ( 1 )  
    —On the Truth of Benefitting Others—
- An Essay on Kenji Miyazawa's  
*An Acorn and a Wildcat* ..... *Toshiko Saito* ( 16 )  
    —Some Notes on a Collection of Tales  
        *The Restaurant that have a large order—*
- Selbst als der Fernste ..... *Tetsuji Ikegami* ( 29 )
- A Study of *Zhendingfu Huoluxian Lingyanyuan*  
( 眞定府獲鹿縣靈巖院 ) ..... *Junsho Keika* ( 40 )  
    —The Form of *Ma'esiyuan* ( 買額寺院 )  
        in *Jin* ( 金 ) dainasty—
- On Mansfield's 'Bliss' ..... *Hiromichi Ichihashi* ( 1 )

Miscellaneous :

---

PUBLISHED FOR THE OTANI SOCIETY  
OTANI UNIVERSITY  
KYOTO, JAPAN

## 大谷学会規程

第一条 大谷大学に大谷学会を置く。

第二条 本会は真宗学・仏教学・哲学・社会学・史学・文学、その他の学術研究と発表をおこなうことを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達成するため、左の事業をおこなう。

一、季刊「大谷学報」の発行

二、「大谷大学研究年報」の発行

三、研究会及び公開講演会の開催

四、その他必要な事業

第四条 1、本会は大谷大学大学院・文学部並びに短期大学のすべての教

育職員及び学生をもって会員とする。  
2、前項のほか、本会の趣旨に賛同し、役員会において承認されたものは、会員となることができる。

第五条 本会に左の役員を置く。

一、会長

二、委員

三、監事

第六条 会長には大谷大学学長が当り、会務を統理する。

第七条 1、委員は十名とし、教授会において互選する。

2、委員は企画・編集・出版等の会務を掌理する。

3、委員の任期は二年とする。但し再任をさまたげない。

第八条 1、監事は二名とし、教授会において互選する。任期は二年とする。

2、監事は本会の会計を監査する。

第九条 会員は本会の出版物にその研究を発表し、「大谷学報」並びに「大谷大学研究年報」の配布を受け、本会主催の会合に出席することができる。

第一〇条 会員の会費は年額金四千元とする。但し、学生会員は貳千元とする。

第一条 1、本会の経費は会費をもってこれに当てる。

2、本会の必要経費については、助成金を受けることができる。

第二条 本会の事務は、教務課の所管とする。

第十三条 この規程の改正には、教授会の議を経なければならない。

附則 1、この規程は昭和五十六年四月一日から施行する。

2、昭和三十七年四月一日施行の「大谷学会会則」はこれを廃止する。

大谷学会役員

委員 大竹 鑑 片岡 了

日下部有信 多田 稔

田中圭治郎 寺川 俊昭

長崎 法潤 名畑 崇

藤田 昭彦 箕浦 恵了

昭和六十三年六月二十日発行

大谷学会

編集兼 福 島 光 哉

発行者 西 村 明

印刷者 西 村 明

京都市北区小山上総町

大谷大学内

発行所 大 谷 学 会

振替 京都 四一八三九三番

電話(〇七五) 四三二一三三二代

郵便番号 六 〇 三